

NPO 法人

# 北見文連

会報 第10号

発行日：令和3年2月16日(火)

発行者：NPO法人北見文化連盟

理事長 平野 温美

事務局：北見市北4条東4丁目11-2

TEL0157-22-0099

## 今年はやヌスのごとく

NPO法人北見文化連盟 理事長 平野温美



2021年春です。歳時記を開けてみたら季節が5

つに分けてありました。春夏秋冬の次に新年の項です。私たちには年が改まることへの気持ちごとくわけ強いのでしよう。たしかに時を区切るることによって、次に向かう力が与えられます。しかし今年は前だけでなく、後ろを振り返ってみることも重要かもしれません。除夜の鐘を聞きながらも、少々わだかまりがありました。昨年は、コロナウイルス感染拡大のため、本来なら時を刻んでくれるさまざまな行事が、消えてしまったからです。それでも、人数を制限し、3蜜をさける注意を徹底して、大切な催しを行なった団体も少なくありませんでした。ここ半年の北見文化連盟の行事では秋の総合芸術際

は中止しましたが、初めてのオンライン展示会を開催しました。また文化の日の文化賞授賞式は無事に開催できました。

英語の一月はやヌス、すなわち古代イタリアの神やヌスから来ています。物事の始まりの神ですが、入り口や門の守護神で、頭の前と後ろに反対向きの顔を持つ双面神

### 第46回文芸北見賞決定

「廉価事件」佐々木賢一、他作品が受賞

投稿者数百六十八人、創作・随筆・詩・短歌・俳句・川柳と多岐にわたる内容となっており、充実した内容の文芸北見五十号が完成し、九月二十七日(日)文芸北見合評会及び授賞式が開催され、オホーツク管内の文芸活動の向上に貢献をしている。

文芸北見賞授賞式・合評会  
市民会館に於いて、『文芸北見

として知られています。

年が改まったといつて、なにもかもが新しくなるわけではなく、私たちはその前を引き継ぎながら前に進みます。昨年はいつもとは違ったことを反芻し、何が出来なくて、代わりに何を思い、何ができたかをひろいあげ、これからの年を育んでゆきたいと存じます。きっと今までにない展開が待ち受けていることでしょう。それを元気の種として、進んでゆこうではありませんか。

第五十号』にご投稿いただいた優



れた作品に「文芸北見賞」の授賞式が行われ、その後、オホーツク地域の文学作品のレベルアップのために、投稿作品の合評会を部門毎に別れて行なった。

文芸北見賞受賞者

- 創作「廉価事件」佐々木賢一(北見市)、「南風」仲間望(網走市)
- 詩「靴の修理屋さん」藤川道雄(北見市)
- 短歌「日勝が馬」大

# 冬の土壌からの「文化花」

## 第53回北見文化賞授賞式

第五十三回北見文化賞授賞式 十一月三日(火・祭) 午後六時 北見市民会館で行われた

文化の普及と発展に永年尽力され、その功績が北見地域の文化史に確たる足跡をのこされた方、更なる活動が期待される方が受賞されました。



授賞式には、ご多忙の中ご臨席いただきまして、ありがとうございました。市長様、高橋克博市議会議長様より

ご祝辞を賜り、岳翠流吟剣詩舞道北見愛和会の華麗な祝舞「祝賀の詞」が披露された。

志賀亮司教育長様の祝杯で盛大な祝賀会となり、受賞者それぞれの鍛錬された大正琴・書道・ピア

澤裕行(北見市)○俳句「春の息吹」土屋正美(北見市)、「オホーツクの春」土屋加代子(北見市)、「小鳥来る」近江禮子(北見市)○川柳「架け橋」田中耕女(北見市)



ノのご披露もあり、出席者一同受賞者を祝福し今後とも地域文化向上のためご活躍下さることを願って幕を閉じ

### 【北見文化賞】

坂 悦子 (大正琴)

平成三年に琴伝流大正琴「琴萌会」を設立。北見で三十年、網走で二十年にわたり、演奏活動と演奏指導を行ってきた。全国各地での演奏や全国大会の出演はきわめて旺盛である。子どもたちの指導も熱心で子ども大正琴教室を開催。全国子供大正琴コンクール参加で三年続けて受賞する成果を上

にのぼる。また北見開基百年記念などのイベントのステージ活動も多く行っている。

### 【北見文化奨励賞】

日下 智煌 (書道)

「地域の人たちに書のすばらしさを知っていただきたい」という思いで、小中学生のみならず公民館での書道講座などで指導をし、自ら書の研鑽を積み、毎日書道展、国際現代書道展、北海道書道展、道東書道展などの公募展で数多く受賞する。端野子ども書初め大会の指導、若獅子新春書初め大会の実行委員。平成二十七年より北見書道連盟事務局次長を務める。

### 【北見文化奨励賞】

村田 孝樹 (音楽)

東京芸術大学在学中藝大フィル



げた。ボランティア活動として施設訪問演奏を行ない、その数は百五十回

新しい生活様式を取り入れた

# 未来へ繋がる新しい発表の場「オンライン展示」

文化連盟事務所での魚拓撮影風景



第三十九回総合芸術祭が、新型コロナウイルス感染症予防の推進で密閉、密集、密接回避などの確保

を行いながら出演者および参加者の感染リスクを抑えることができないため中止とし、展示や舞台関係の発表の場が無くなりました。教育委員会と北見文化連盟にて

ハーモニアとプロコフィエフピアノ協奏曲第2番を共演し、勉学後のドイツ留学を経て、北見を拠点にソロ活動や伴奏などの演奏会を活発に行っている。  
平成三十年から生徒のピアノレッスンも行なう。自己研鑽のための努力を惜しまず、定期的なソロコンサート等の音楽活動を続け



る。この地域の音楽分野でこれからも大いに活躍し貢献するところが期待される。

3蜜を回避した上での作品発表の場として、様々な検討を重ね、終息の見えない状況が続くなか、新しい生活様式を取り入れた「今」だからこそできる芸術・文化活動は何か？を考えたとき、「いつでも・どこでも・気軽に」幅広い年



オンライン展示作品 (押し花・ハーブ・陶芸)

齢層が芸術に触れることのできる身近な存在として北網圏北見文化センターで開催の美術展、書道・写真展および北見市民会館ホワイエで開催の展示をインターネット上で発表する「KITAMIオンライン展示」の事業をスタートすることとしました。  
十一月九日から募集を開始し、絵画・水墨画・書道など多岐にわたる団体および個人から応募をはじめ、北見趣味の押花会・北見書



る、参加者二百十二名、作品点数二百八十六点になり、慌ただしく撮影を開始しました。  
撮影するとき作者との打ち合わせをしながら撮影をすすめ、北見文化連盟事務所をはじめ、開成ふるさと工芸館など十二か所で撮影をする中で、様々な方と文化交流ができ大変有意義な撮影だった。  
同事業のホームページが完成し十一月九日から公開され閲覧回数が二日間約五千回にのぼり関心が高く、またアメリカ四十六回とイギリス三十三回の閲覧回数があり、従来だと地域住民のみの発信だったが、インターネットで公開したことにより海外在住の方も作品を見ることができた。

道連盟・ひろいの会など当初予定していた参加者数八十名と作品数百八十点を大きく上回

# 新規加盟団体紹介

1団体及び4個人



高校卒業以来、45年ぶりに故郷北見に戻ってまいりました。伊藤彰規と申します。移り住んで丸2年が過ぎましたが、久しぶりに住んで改



今年度から個人会員として入会させていただきます。きました村田孝樹と申します。

私は北見市に生まれ育ち、東京での学生生活、ドイツ留学を経まして、現在は再び地元北見市に戻りソロや伴奏等のピアノ演奏活動、そしてピアノのレッスンを行っております。昨年からは新型コロナウイルスの影響で世の中大変な状況が続いておりますが、今後もピアノの魅力をより多くの方に知っていただけるように励んで参りたいと思います。これから会員の皆様と交流できますことを楽しみに

めて北見の青空、気候風土の美しさに日々感動しています。自分の感性の原点ともいえるこのオホーツクの地に根を張り、また新たな作品世界を切り開いていかなければと思っています。

この度は、ひとりの画家としてまた個人会員の立場で、北見の文化のためにお手伝いできることがあれば幸いです。今後ともどうぞ

しております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。



北見ハーブの会「香音」はハーブスクール「香音」(増井五夜子主宰)を拠点にハーブインストラクター養成教室、道新文化センターハーブの理論に基づき研鑽を積んできた講師

と生徒の会です。私達は自然環境に寄り添い、ハーブを育て、食し、クラフトなどを創り楽しみを共有してきました。またハーブの特性を活かし心身の健康に役立ててきました。



昨年の秋、個人会員として入会させていただきました。きました小刀禰博子です。

2008年に文化奨励賞を頂いてから12年が過ぎました。北見を気のある文化の街にしたいと、微力ながら自分自身の音楽活動や、合唱団のピアニストとしての活動などを続けております。今年の7月10日に、8回目の小刀禰博子オリジナルピアノコンサートを北見芸文ホールで開催いたします。まだまだやれる！音楽の力のすばらしさをもっとお伝えできるよう、皆様との交流を深めながら、活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

ハーブは私達の暮らしに彩りを添え豊かにしてくれる、「Herb」人に役立つ草」です。今後も「ハーブのある暮らし」展を開催し安全性や活用法を伝えるに行きたいと思っております。



個人会員として入会させていただきました。きました佐藤堅一です。第五〇回北見

文化奨励賞を頂いてから、賞に恥じぬよう更なる研鑽を考えるようになり、所属していた北見写真協회를脱会し、大学教授および道内で活躍している写真家の指導を受け活動をしています。

ドローンを使用してまだ見ぬ北海道の自然と野生動物の喜怒哀楽の撮影を始めました。社会情勢の動向を考慮しながら今年6月に第2回目の個展を開催する予定です。

若輩者ですが、皆さまと交流し切磋琢磨できるよう活動をしていく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。